

7-4 神奈川県のでんかん診療体制整備事業

1. 神奈川県でんかん治療医療連携協議会・事務連絡会議

2. 神奈川県でんかん治療医療連携協議会・議長

川上康彦 1,2 太組一朗 1,2 宮本雄策 1 山野光彦 1 原 恵子 1 岩崎俊之 1
議長 太組一朗 (平成 29 年 9 月まで)、川上康彦 (平成 29 年 10 月から)

まとめ

907 万人という大人口を抱えているにもかかわらず、県内に包括的なでんかんセンターがなく、多施設の連携によるでんかん診療体制であり、また、人口に比して専門医が少なく偏在している、という特徴があり、包括的なでんかんセンターを圏内に有しない多くの地域のモデルになり得る。成果は、

- ・研修会、市民講座により、患者、一般市民、医療関係者、行政関係者のでんかんへの理解を高めた。
- ・でんかん専門医マップを作成し、拠点病院およびでんかん診療機関を県民、医療機関に知らしめた。
- ・パープルデイライトアップ、新聞やラジオ等公共のメディアを活用し、普及・啓発活動を強化して県民のでんかんに対する関心を高めることができた。
- ・派遣の社会福祉士を雇うことで専任の相談窓口と協議会医療機関間の連絡・調整を可能にした。
- ・協議会で意見交換する事で行政の協力が得られるようになった。

1. 神奈川県のでんかん診療連携体制整備事業

1) 概要

907 万人という大人口を抱えているにもかかわらず、県内に包括的なでんかんセンターがなく、多施設の連携による体制であり、また、人口に比して専門医が少なくかつ偏在しているため、いかにして県内のでんかん医療の均てん化を図るかが課題であった。神奈川県でんかん治療医療連携協議会を組織し、必要な医療を必要とされている患者さんに届ける、受診先を明らかにしてでんかん難民を作らないことを、神奈川県の目標に活動した。多施設の連携によるネットワークを構築し、専任のコーディネータによるでんかん治療および患者への相談支援を行い、また上記の問題に対し、でんかんに関する普及啓発活動に力を入れ、でんかん診療における地域連携体制を向上させることを目指した。

2) 具体的な活動

- ・でんかんの研修会・市民公開講座（医療関係者、でんかん専門職、患者、一般市民）
- ・でんかん専門職向け研修（精神保健福祉従事者）
- ・パープルデイライトアップ
- ・でんかん専門医マップ作成
- ・でんかん啓発ポスター作成
- ・新聞、ラジオでの広報活動

これまでの啓発活動

でんかんの研修会・公開講座	平成 27 年度	3 月
	平成 28 年度	12 月・3 月
	平成 29 年度	12 月・3 月 (予定)
川崎市精神保健福祉従事者研修	平成 29 年度	8 月
パープルデーライトアップ	平成 28 年度	3 月
	平成 29 年度	3 月 (予定)
	でんかん専門医マップ作成	平成 29 年度
でんかん啓発ポスター作成	平成 29 年度	2 月

2. でんかん普及・啓発活動

大人口に比して専門医が少なくかつ偏在しているため、いかにして県内のでんかん医療の均てん化を図るかが課題なので、普及・啓発活動に力を入れた。

1) てんかんの研修会・市民公開講座

前半は、医療関係者、てんかん専門職（教職員等）向けの研修会、後半は患者、一般市民向けの市民講座を行い、同時に難治てんかんの個別相談も行っている。会場により190～380名の規模で行っている。

2) てんかん専門職向け研修

川崎市の精神保健福祉当従事者（区役所保健福祉センター、こども未来局、健康福祉局、地域療育センター、地域包括支援センター等の職員）にてんかんに対する最新情報を講義した。

3) パープルデイルイトアップ

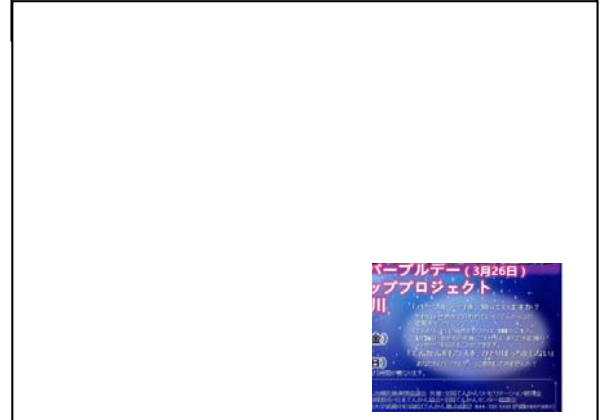
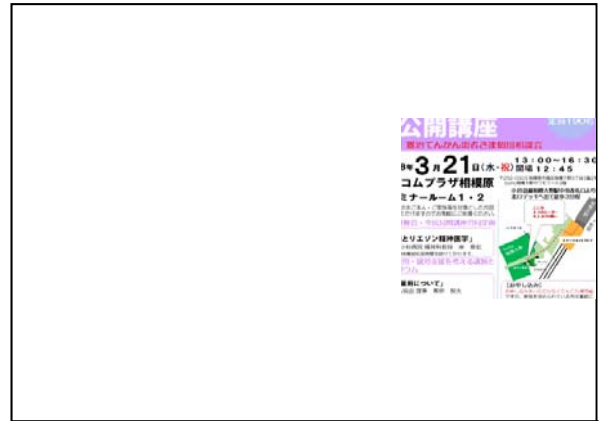
一般市民にてんかんに対する関心を持ってもらうため、国際パープルデーに合わせて3日間、神奈川県内の有名観光施設6カ所を紫色にライトアップした。

4) てんかん専門医マップ

患者及び医療機関がてんかん専門医療にアクセスしやすいように、専門医のマップを作成した。一部は顔が見え、ムービーで詳しい説明を見ることができる。

5) てんかん啓発ポスター、新聞、ラジオでの広報活動

患者向けにポスターを、患者・一般市民向けに新聞、ラジオを通じて普及活動を行った。



事業ポスター

応援します、
てんかんに負けないあなたを

神奈川県てんかん治療医療連携協議会

【広報活動】

神奈川新聞

神奈川県 県の便り

2 てんかんの公開講座

●「小児てんかん」「高齢者のてんかん」
日程▶3月26日(日)14時15分～16時15分
県総合医療会館(横浜市中区) 講師▶県立こども医療センター神経内科部長・後藤知英、東海大学医学部講師・山野光彦氏 定員▶当日受付200人

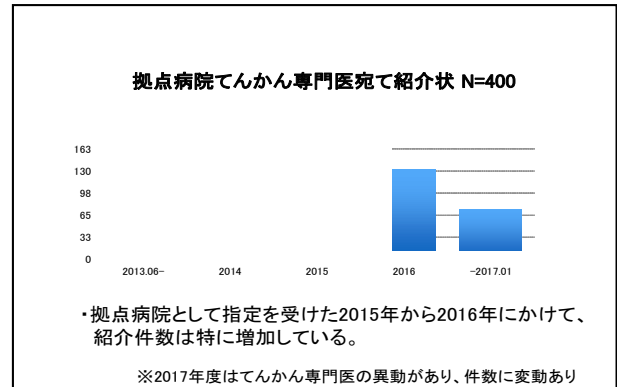
東京新聞WEB

FMかわさき

3. 拠点の日本医科大学武蔵小杉病院の診療指標

モデル事業開始の2015年から拠点病院である日本医科大学武蔵小杉病院のてんかん専門医宛の紹介は大幅に増加している。ただし、2017年度はてんかん専門医の異動により減少している。

2015年4月～2018年1月の新患は288例で、県内が176名69%であるが、東京、千葉はじめ県外も112例(39%)と多かった。県内では、拠点病院周囲の川崎市南部、北部、横浜市北部、西部、南部の医療圏の患者が多かった。



4. 相談業務

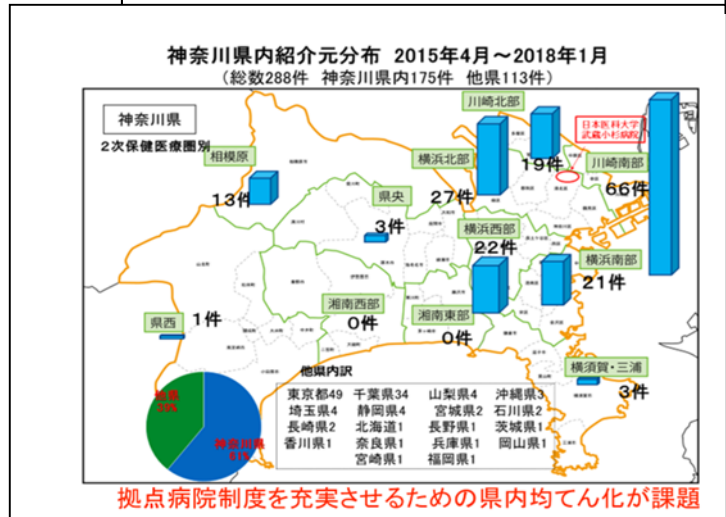
派遣の社会福祉士を専任コーディネーターとして採用し、拠点病院の日本医科大学武蔵小杉病院ホームページでてんかん相談を行っている旨を告知し、脳神経外科外来で電話および対面で相談を行った。

電話相談は月曜日・水曜日・金曜日の9:00～12:00、対面相談は完全予約制で月曜日・水曜日・金曜日の13:00～16:00とし、日本医科大学武蔵小杉病院でいる。

2017年3月～2018年1月までの相談件数は、電話相談27件、対面相談1件(電話相談後)で、相談内容は受診先や診療の相談が多く、対応は専門医他案内と当院受診が多かった。

相談窓口開設の効果としては、てんかんの拠点病院があるという認識が少しずつ広まっている、専門医を受診するきっかけとなっている、県外から転入された方にも診先を探す助けとなっている、患者本人・家族だけではなくてんかん患者に関わる職種の方からも相談できる窓口として認識されつつある、である。

相談窓口の今後の課題としては、①相談窓口の認知が進んでおらず、相談件数がまだまだ少ないので、更なる認知に努める必要がある、②より良い情報を提供するために、県内でのてんかん診療を行っている医療機関についてより詳しい情報を収集する必要がある、③他医療機関や行政、各事業所等との連携を強化し、より多くのケースに対応できる体制をつくる、である。



N=27	
相談内訳	対応内訳
電話のち対面 1件	医療連携へ引き継ぎ 1件
その他 3件	当院でセカンドオピニオン実施 1件
セカンドオピニオン 2件	その他 2件
当院受診希望 2件	受診継続 1件
	助言 2件
	受診先相談 10件
	診察相談 9件
	専門医、他案内 13件
	当院受診 7件

5. 神奈川県における成果と課題

成果は冒頭のまとめに述べた。今後は以下の課題の解決と神奈川モデルの形成を目指したい。

- ・県内てんかん医療の均てん化
- ・三浦・横須賀、など、てんかん過疎地域をどうするか
- ・各医療機関、行政や事業所との更なる連携